

TOKYO MAIL NEWS



RAIL
TRANSPORT
SERVICE WORKERS
UNION

輸送サービス労組 東京地本

JTSU-E TOKYO

2022.4.1
No.273



HOME PAGE



TWITTER

東地申第60号「2022年度東京総合車両センター業務量等について」に関する申し入れ団体交渉を行う!!! その1

1. 「変革 2027」や「組織の再編」などの施策が進められる中で、東京総合車両センターの役割や将来展望について示すこと。また、他の総合車両センターとの業務量調整の考え方を明らかにすること。

【会社回答】安全で快適な車両の提供を基軸に、中長期的には長編成ステンレス車両をメンテナンスする総合車両センターと位置付けており、首都圏輸送を支えながら、CBM 技術の中核的な役割を担っていくこととなる。また、業務量調整については、これまでと同様に、各総合車両センター間の業務量等を勘案し実施していく。

【組合】

- ・TK の役割について変更はないか？
- ・組織の再編によって東京総合車両センターがどのように変わっていくのか明らかにすること。
- ・職場で説明会が行われているが、管理者が説明できない。支社としてどう考えているのか？
- ・業務量調整の考え方に変更はないか？また、今後、首都圏本部になるにあたって変更点があれば明らかにすること。

【会社】

- ・役割については変わらない。
- ・支社の企画業務の車両に付随する一部業務について現場でできることを将来的に移管する。
- ・社員説明は本社で方針が示されておりお知らせしている。具体的なものは決まっていれば説明し、社員の意見を聞いていく。
- ・変更はない。それぞれの総車セの能力に対して全体最適解をみつけるものだ。

2. 東京総合車両センターにおける「ミライの車両サービス&エンジニアリング構創」の進捗状況を示し、検修設備の刷新について現在検討されている内容やスケジュールを具体的に明らかにすること。また、進捗状況を前広に周知すること。

【会社回答】「ミライの車両サービス&エンジニアリング構創」の実現に向けて、引き続き、検討を行っている。検修設備については、コンパクトかつ機器運搬の動線が最適な建屋配置に向けた必要な設備を整備していく。また、必要の都度、社員周知は行っていく考えである。

【組合】

- ・支社として東京総合車両センターと何を検討しているのか明らかにすること。
- ・経営状況によって変更となるのか明らかにすること。
- ・S&E 構創のスケジュールを具体的に示すこと。
- ・設備の老朽取り替えについて明らかにすること。

【会社】

- ・TK30から検討しているが、工程などどういった設備が効率的になるのか、条件出しを行っている。
- ・経営として意思決定はまだ行っていない。検討は進めている。隠しているわけではない。
- ・経営決定していないので、具体的なスケジュールは決まっていない。
- ・業務に必要な設備は整備していく。

3. 東京総合車両センターにおける2022年度の標準数を示すこと。また、定期検査および改造工事について、余裕をもった適切な工程と要員を確保し、各科において業務の平準化を図ること。

【会社回答】業務に必要な要員と工程は確保していく考えである。

【組合】

- ・標準数を示すこと。
- ・出面数をどのように算出しているのか明らかにすること。特に計画科はどのように算出しているのか明らかにすること。
- ・業務の平準化を行うこと。

【会社】

- ・標準数を示すと硬直的になる。職場の実態を反映するために作業ダイヤ数で示している。
- ・作業量を見ている。計画科でも今までの作業量を見て、それをもとに精査している。
- ・平準化を目指して工程をつくっていく。

作業ダイヤ数ではわかりづらい！標準数を示すことをあらためて求める！

その2へ続く

TOKYO MAIL NEWS



JTSU
EAST
TRANSPORT
SERVICE WORKERS
UNION

輸送サービス労組 東京地本

JTSU-E TOKYO

2022.4.1
No. 273



HOME PAGE



TWITTER

東地申第60号「2022年度東京総合車両センター業務量等について」に関する申し入れ団体交渉を行う!!! その2

4. モニタリング保全体系におけるC保全について、トライアルの課題を明らかにすること。また、具体的にどのように変更するのか示し、変更点については教育を行うこと。さらに、要員については現体制を維持すること。

【会社回答】E235系に適したメンテナンスの確立に向けたトライアルを実施し、良好な結果が得られている。なお、業務に必要な要員は確保し、必要な教育を実施していく考えである。

【組合】

- ・変更を検討していることについて具体的に明らかにすること。
- ・要員について変更はあるのか明らかにすること。また、A・B保全のように要員削減前提で行わないこと。

【会社】

- ・検討していることは、戸閉装置の給油の省略、空調はフィンの清掃への変更、パンタグラフは固渋していなければメンテナンスしないなど、一律でメンテナンスしていたものについて変更することを検討している。変更点は教育のなかで示していく。
- ・全体の業務量をもて必要な要員をそろえていく。要員削減のために作業を減らすという事はしない。 **確認!**

**要員削減ありきではないことを確認!
検証を行ってから導入するべきだ!**

5. 東京総合車両センターにおける人材育成の考え方を示し、技術技能継承ができる体制とすること。また、現在行われている施工科と計画科との兼務発令についての考え方を明らかにすること。

【会社回答】引き続き、技術力と思考力により創造力を発揮し、CBM技術の中核的な役割を担う人材を育成していく。なお、兼務発令は、人材育成・技術継承等の観点から必要に応じて実施している。

【組合】

- ・回答書にあるCBMの中核とはどのような人材なのか明らかにすること。
- ・兼務の考え方を明らかにすること。

【会社】

- ・計画科が何をしているのか、データ分析を学び、それをメンテに活かしていくということだ。
- ・計画管理や保全方法を学ぶなど、技術的な成長を目指している。

6. これまで車両修繕費の大幅な削減が行われているが、過度な修繕費の削減を行わず、車両の安全と品質を確保することを前提とすること。

【会社回答】引き続き、必要な修繕を行っていく考えである。

【組合】

- ・コストダウンを行う場合、車両の安全と品質を確保すること。
- ・どれだけコストダウンしているのか金額を明らかにすること。

【会社】

- ・安全はトッププライオリティだ。そのうえでコストダウンを行っていく。 **確認!**
- ・一概には言えないが2021年度は概ね3億円程度である。

様々な施策が行われる中で将来の東京総合車両センターがどうあるべきが議論していこう!